

2. 火山の概況

(平成17年5月26日～平成17年6月1日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていると推定される。

浅間山では活発な噴煙活動が継続し、微弱な火映が頻繁に観測された。火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。火山活動度レベルは3（以下、レベルと記載）。

三宅島では一時的な地震の増加が見られた。多量の火山ガスの放出が続いていると推定される。

阿蘇山では、赤熱現象が観測される等、火口内の熱的な活動のやや活発な状態が続いている。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは2、新燃岳のレベルは1。

諏訪之瀬島では噴火が連日観測され、30日以降は爆発的噴火が時々観測された。レベルは3。



図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山（火山名に下線）

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	草津白根山	浅間山	三宅島	福徳岡ノ場	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
22	5/26-6/1	●	●	●		●	●		●	●	◆	◇	◇	▲
21	5/19-5/25	●	●	●	◆	●	●		●	●	▲	◇	◇	▲
20	5/12-5/18	●	●	●	●	●	▲	●	●	◆	◇	◇	◇	◇
19	5/5-5/11	●	●	●	●	●	●		●	●	◇	◇	◆	◆
18	4/28-5/4	●	●	●		●	●		●	●	◇	◇	●	▲

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
22	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
21	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
20	①	①	③	①	①	③→②	①	①	②	②	②	②	③
19	①	①	③	①	①	③	①	①	②	②	②	②	③
18	①	①	③	①	①	③	①	①	②	②	②	②	③

表1 最近1か月に記事を掲載した火山（左）及び各火山のレベル（右）

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山 ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 記事は、▲、●及び◆（注1参照）に該当する火山及びレベル2以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていると推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m で推移した。

● 樽前山 [熱]

A 火口および B 噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

● 浅間山 [噴煙・火映・地震・微動] レベル 3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、最高で火口縁上約 300m まで上がった。また、微弱な火映が 26 日と 28 日を除く毎日、山麓の高感度カメラ¹⁾で観測された。

火山性地震及び微動の回数はやや多い状態が続いており、期間中それぞれ 1 日当たり 47～76 回、1～8 回であった。

1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。

● 三宅島 [地震・空振・噴煙・火山ガス]

31 日 14～21 時に山頂火口直下を震源とするやや低周波地震が増加した。その間の 17 時 40 分には空振を伴う振幅のやや大きな低周波地震が観測され、三宅村神着で震度 1 が観測された。しかしながら、地震発生時の噴煙は白色で噴煙量の増加は認められず、その直後に行った現地調査でも降灰は確認されなかった。また、その他の観測データにも特に異常は見られなかった。

期間中の火山性地震の回数は 31 日に 99 回と一時的に増加した以外は少なく、1 日当たり 1～6 回であった。山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、最高で火口縁上約 700m まで上がった。

今期間は火山ガス放出量の観測を行わなかったが、三宅村の火山ガス濃度観測によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されたほか、噴煙活動にも大きな変化が見られなかったことから、山頂火口からは依然として多量の火山ガス放出が続いていたと推定される。

● 阿蘇山 [赤熱²⁾・熱・土砂噴出・微動・地震] レベル 2 (やや活発な火山活動)

31 日夜に、監視カメラによる観測で、中岳第一火口底北側噴気孔付近で赤熱現象²⁾が確認された。赤熱域は火口底のごく一部と狭く、その他の現象には特段の変化は見られなかった。火口底で赤熱現象が確認されたのは平成 2 年 (1990 年) 以来であった。中岳第一火口内の状況は上記赤熱現象以外に大きな変化はなく、熱的な活動が依然としてやや活発で、火山性連続微動が継続して観測されている。

阿蘇山測候所が 26 日及び 31 日に実施した現地観測によると、中岳第一火口内の状況は、前期間と比べ大きな変化はなかった。湯だまりの状況は、色は 26 日の観測で灰色から黒灰色に変わったことが確認されたが、量は減少傾向にあるものの引き続き約 2 割で、表面温度も 71～76℃ と依然高い状態であった (前期間は 75℃)。湯だまり内では、中央部付近で高さ約 5 m、その他数ヶ所で高さ 2～3 m の土砂噴出が観測された。

火山性連続微動は引き続き期間を通して継続した。微動の振幅は発生以来消長を繰り返しており、今期間は 6 月 1 日朝からやや大きくなったが変化は小さいものであった。孤立型微動の発生回数は 554 回で前期間 (591 回) と同程度で推移し、火山性地震の発生回数は 31 回で前期間 (44 回) よりやや減少した。

噴煙活動、地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

2) 地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。

● 霧島山 [噴気] 御鉢：レベル 2 (やや活発な火山活動) ・新燃岳：レベル 1 (静穏な火山活動)

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、監視カメラによる観測で、26 日に火口縁上約 100m の高さの噴気が観測された。地震活動等その他の観測データには特に変化はなかった。

◆ 桜島 レベル 2 (比較的静穏な噴火活動)

今期間、噴火は観測されなかった (前期間は、ごく小規模な噴火が時々発生したが、爆発的噴火等³⁾

は観測されなかった)。地震活動等その他の観測データには特に変化はなかった。

3) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火の回数を計数している。

◇ 薩摩硫黄島 レベル2 (やや活発な火山活動)

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 口永良部島 レベル2 (やや活発な火山活動)

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・爆発・降灰・微動] レベル3 (小規模な噴火が発生)

26日夕方から噴火が連日観測され、30日夕方からは活動が活発になり、爆発的噴火(以下、爆発)が時々観測された。活動の活発な状態は期間の終わりまで続いた。爆発は30日に4回、31日に6回、6月1日に7回観測された。爆発が観測されたのは、今年1月4日以来であった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所(以下、出張所)からの報告及び遠望監視カメラ⁴⁾の観測によると、噴煙の高さの最高は6月1日09時頃に出張所から確認された火口上約3000mであった。出張所によると、30日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰があった。

火山性連続微動が、26日夕方から期間を通して断続的に観測された。

4) 御岳の北北東約25kmの中之島に設置。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第149号	26日16:00	前日及び当日00時～15時の活動状況(噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想)。レベルは3。
	↓(1日1回発表)	↓	
三宅島	火山観測情報第155号	1日16:00	前日15時～当日09時もしくは当日09～15時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第289号	26日09:30	
阿蘇山	↓(1日2回発表)	↓	やや活発な火山活動が継続(連続微動継続、湯だまりの表面温度高い)。レベルは2。
	火山観測情報第302号	1日16:30	
諏訪之瀬島	火山観測情報第27号	27日11:00	やや活発な火山活動が継続(赤熱現象を確認、連続微動継続、湯だまりの表面温度高い)。レベルは2。
	火山観測情報第28号	1日11:30	
諏訪之瀬島	火山観測情報第2号	31日09:50	昨日(30日)から噴火活動活発(爆発的噴火が発生)。レベルは3。
	火山観測情報第3号	1日14:30	
			活発な噴火活動が継続。レベルは3。